

JR東海労ニュース

No.2542

2020年10月24日

JR東海労働組合



冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ⑩

JR東海の自己資本率は約40%！ 3兆円超の利益剰余金を社員のために！

2020年度の第1四半期連結決算では、JR東海は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、72%の減収でした。JR東日本は55%の減収でしたので、とんでもない赤字に転落したように見えます。現にJR東海は、会社発足以来の赤字であり、大変な状況であるかのように強調しています。しかし、JR東海の営業赤字は836億円であり、これはJR東日本の半分程度の赤字額で済んでいます。

JR東海の昨年度の営業収益（連結）は、約75%が運輸収入であり、その運輸収入の約90%が東海道新幹線の収入です。一方、JR東日本の運輸収入の内、新幹線の収入は30%程度です。今回JR東海の減収幅が大きく見えるのは、東海道新幹線の収入が前年比マイナス17%となったことが、JR東日本よりも減収幅が大きくなった最大の要素といえます。

JR東海は、2019年まで業績を順調に伸ばしており、営業利益は7,000億円を超えています。また、JR東海の営業利益率は37%以上であり、JR東日本会社の16%よりもかなり高いのです。また、自己資本率は約40%であり、リニアを建設しない限り、倒産の心配はありません。

今回の決算において、JR東海の財務状況は、ほぼ傷んでいないと思われれます。また、利益剰余金は約3兆6,000億円あります。これは、今まで社員が一生懸命働き、稼ぎ出したお金であることは言うまでもありません。だからこそ、利益剰余金から社員のために還元するべきです。3.5ヶ月を支払ったとしても、微々たるものです。

会社はこれまで、過去最高益を出してもボーナスは、安定的支給ベースを盾に要求に応えませんでした。会社が「日本の大動脈、日本の経済を支えるために」と言うのであれば、今こそ、これまでの社員の努力を認め、3.5ヶ月満額支給をするべきです。

**JR東海労はコロナ禍を理由に労働者へ
我慢と犠牲を強いる会社を許しません！**